

# 平成 22 年度宮城県リスクコミュニケーションモデル事業実施結果（概要）

## 【 株式会社ケーヒン 角田第一工場 】

宮城県環境生活部環境対策課

### 1 はじめに

化学物質は、私たちの日常生活を維持するために欠かすことのできない存在となっておりますが、一方、環境中の化学物質が人や動植物に悪影響を及ぼすレベルにならないよう適切な管理や取扱いが行われなければなりません。

事業者による自主的な化学物質の適正管理と排出削減も重要ですが、より合理的に環境リスクを管理し削減するためには、住民、事業者、行政が化学物質に関する情報を共有し、意見交換を通じて意思疎通と相互理解を図る「リスクコミュニケーション」の取組が有効です。

宮城県では、県内のより多くの地域及び事業者においてリスクコミュニケーションの取組が行われることを目指し、普及啓発と取組支援のためにモデル事業を開催しました。

### 2 開催概要

- (1) 事業者 株式会社ケーヒン 角田第一工場  
所在地：角田市梶賀字高畑南 213
- (2) 日時 平成 22 年 11 月 24 日（水）  
午後 2 時から午後 4 時 40 分まで

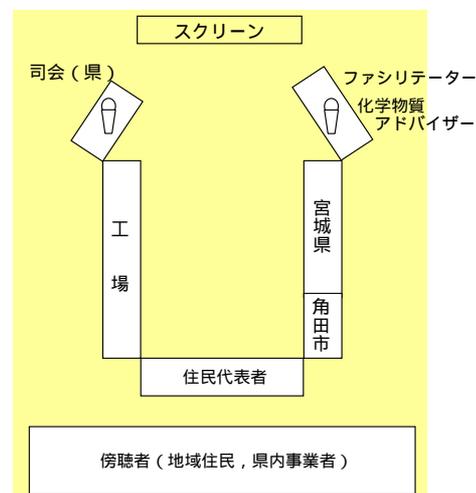


(会場風景)

### 3 出席者

合計 54 名

- (1) 参加者 計 17 名
  - 住民代表者 3 名（高畑南行政区）
  - 工場 6 名
  - 角田市 2 名
  - 宮城県 4 名
  - ファシリテーター 1 名
  - 化学物質アドバイザー 1 名
- (2) 傍聴者 計 37 名
  - 住民 11 名
  - 県内事業者 21 名
  - その他 5 名



(会場イメージ図)

### 4 プログラム

- ・開会あいさつ
  - ・化学物質に関する講演 (化学物質アドバイザー)
  - ・宮城県における化学物質の排出状況等について (宮城県環境生活部環境対策課)
  - ・企業紹介
  - ・工場見学
  - ・工場への取組について
  - ・意見交換会
- (株式会社ケーヒン角田第一工場)

## 5 意見交換会の主な内容

### (1) リスクコミュニケーションを実施した趣旨についてもう一度説明してほしい。

< 県 > 県では、事業者の化学物質管理については排出量や移動量の把握等の適正な管理を推進していただいているところですが、さらなる管理体制促進のためには、地域にお住まいの方々、事業者や行政と、地域を構成するすべての関係者が、化学物質のリスクについて共有し、意思疎通と相互理解を深めることが非常に効果的な役割を果たすとされています。こうしたことから、県では平成 19 年 3 月に「宮城県化学物質適正管理指針」を作成し、リスクコミュニケーションを含め、事業者による自主的な化学物質の管理・改善を推進しているところです。

リスクコミュニケーションに関する事業は、昨年度からの 3 か年のモデル事業として計画していますが、この事業では、いろいろな事業者にリスクコミュニケーションとはどのようなものか、これから各事業所でどうやっていったらよいのかを、実際の展開の中で体験しながら考えていただき、モデル事業の開催や参加をきっかけにして、県内でもっとその取組が進んでいくような機会にしていきたいと思っています。

県内の多くの事業所の方に、このようなモデル事業がありますが、やってみませんかとお話ししたところ、去年は 2 事業所から、今年度はこちら株式会社ケーヒン角田第一工場さんからやってみますとのお話をいただきまして、今回の開催となっております。

< ファシリテーター > 何か問題があったからではなく、事業経営の中で率先してやっていくということが大事ですね。

### (2) この会社の近くに会社より先に 40 年以上住んでいます、初めて会社を見学させていただきました。事前に質問事項の整理票を書いていたのですが、見学したことによって半分以上は解決できたのではないかと同時に、ご説明いただいたとおりであれば完璧で、行政区にも住民に対しても問題は起こさないのではないかと考えられます。ただ、先ほどの説明で廃棄物の処理や確認を丁寧にやっているとお話がありましたが、廃棄物の処理やその確認をより一層しっかりしてほしいと思います。こちらの事業所との直接の関連はないかもしれませんが、最近でも地元の業者が扱っていた産業廃棄物と疑われるトランス(変圧器)が捨ててあるとの苦情が区の方々から寄せられたことがある。現場に行くと、また市役所を通じて県の方に実際みてもらった結果、やはり有害物質を含むものだということがわかり、すぐに県のほうから業者を指導し、処分してもらったようですが、私のほうとしては果たしてどこに処分したのかが心配です。

< 県(保健所) > ご指摘の事案については、内容を調査した上で適正に処分するよう指導しております。ただ、急にすぐ処理というわけにはいかないものなので、現在は事業者が適切に一時保管しているという状況です。

### (3) 先ほど工場を見学させていただいたのですが、非常にきれいで整然としており、廃棄物や環境関係の取組もよくされているようで感心しました。長年住んでいて特に今までトラブルもなかったわけですが、私たち住民としても非常に関心のあることだけに、これからはならないように、何かトラブルになりそうな時は、お互いに話し合いをしながらコミュニケーションを図り、住民訴訟とかそういったことにならないように、これからは是非よろしくお願ひしたいと思います。

環境問題への取組をうかがいましたが、ひとつだけ、ケーヒンさんの関連する会社の環境への取組や教育に対してどのようなことがなされているのかおききしたい。

< 工場 > ISO(国際規格)の活動の一環として、環境教育というものがありまして、その中で関連会社及び子会社を含めて、社員への環境教育も実施しており、第三者機関の審査でもクリアしています。

### (4) 事前のアンケートに、工場で取り扱っている化学物質に不安はあるかとの質問もあったのですが、そういったことを感じずにずっと暮らしてきました。今日の開催について、県の案内の中に「わからないことをさく」「事業所の取組を知る」とありました。そういった

ことをしたくてきたものですから、先ほどのアドバイザーさんの話や工場の説明などを聞いて、ほんとに安心できるものだと感じました。

<工場(工場長)> 今回のように、これからも情報交換、情報の開示をやっていきたいと思しますので、今後ともよろしくお願ひしたい。

- (5) [傍聴者からの意見](事業所さんが)時々、地域でゴミ拾いや清掃をされていてたいへんありがたいと思っているのですが、もう少し地域の人にアピールしたらいいのではないのでしょうか。地域の方にも伝える、伝わるようにしたらよいのではないか。そうすれば啓発にもなるし、ゴミも少なくなると思ひます。

<ファシリテーター> きちんとアピールすることで住民も協力できる、一緒に取り組めるといふことですね。

- (6) 有機溶剤使用時の工場外への排気濃度(排出ガス中の濃度)を測定していますか？

<工場> 有機溶剤等のVOC(揮発性有機化合物)の排出濃度に関する基準は全国一律のものがあり、一定規模以上のVOCや有機溶剤を使用するような大きな施設には適用されるが、当工場には該当しないため、測定はしていません。

- (7) 排水は、敷地内の真ん中あたりにあった排水路に流しているのですか？

<工場> 直接川に流しているのではなく、下水道に接続しているため、排水路には流れていません。

- (8) PRTR 制度とリスクコミュニケーションがなぜ絡むのですか。

<化学物質アドバイザー> PRTR 制度といふのは、どんな化学物質が、どこから、どのくらい出ているのかを把握して公表するしくみです。工場や事業所は自分のところで使う化学物質がどれくらい大気系(空気中)に出したか、川に流しているのか、あるいは廃棄物として業者に処分を頼んでいるかとかを把握して届出し、一方で届出がないようなものについては、例えば自動車の排ガスからどのくらいといふように、別の機関が推定するなどして、それを公表するといふことに意味があるしくみです。

公表するといふことは、例えば今日いらしている皆さんがそのデータをみるこゝができる、届出をした事業者も同業他社とのデータ比較ができる、そのことにより自主的に化学物質の排出量の削減やリスクを低減するような工夫ができるといふような、自主管理のうごきを期待するものです。その上で、自分たちだけで対策を考へて進めていくのもよいのですが、地域や行政の方々の意見を反映しながらリスクコミュニケーションを進めていくといふことが非常に大きなポイントになる、これがPRTR 制度といふことができます。

<ファシリテーター> ケーヒンさんの説明やデータでも排出量と移動量が出てきた図がありました。量的にはどのくらいでしたか。

<工場> 有機溶剤関係では、トルエンで年間200kg、キシレンで81kg といふことになります。

<ファシリテーター> 排出される化学物質による影響について、今回のデータをみてどのような感じを受けましたか。

<化学物質アドバイザー> ケーヒンさんの説明とデータをみてみますと、環境への影響は小さいと思ひれます。

<ファシリテーターから>

本日は初めてのコミュニケーションといふことでしたが、工場の方からは、今後ともこのような取組を続けていきたいといふお話がありました。ぜひ今日のこの会から繋げていっていただきたいと思ひます。

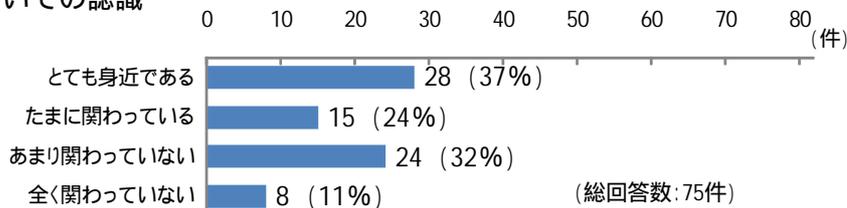
## 6 住民アンケート（事前）

リスクコミュニケーションの開催に先立ち、角田市の御協力をいただいて工場周辺地区（高畑南地区）の住民の皆様を対象として、工場の化学物質管理等に関するアンケート調査を実施しました。

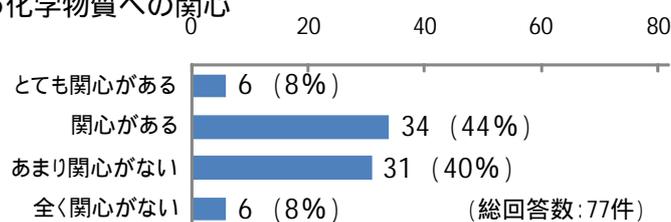
回答状況

地 区	世帯数	回収数	回収率
高畑南	350	82	23.4%
合 計	350	82	23.4%

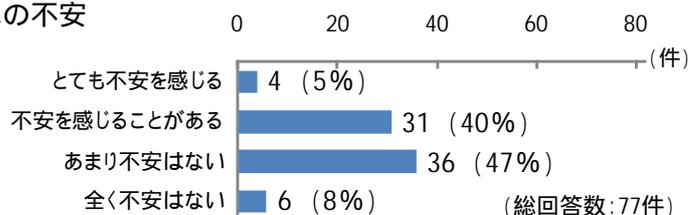
化学物質についての認識



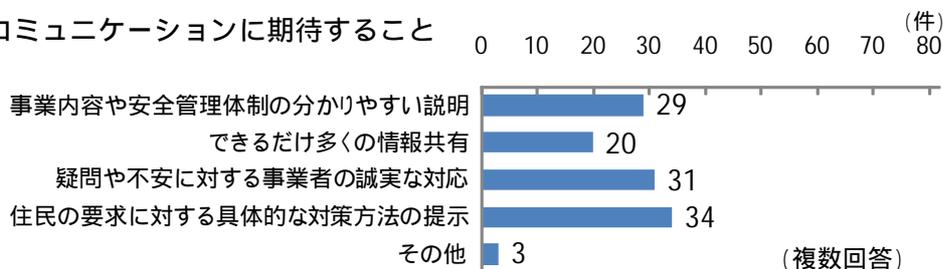
工場で取り扱う化学物質への関心



工場で取り扱う化学物質への不安



リスクコミュニケーションに期待すること



なお、集計結果の詳細はこちら [\(住民アンケート集計結果\)](#) を御覧ください。

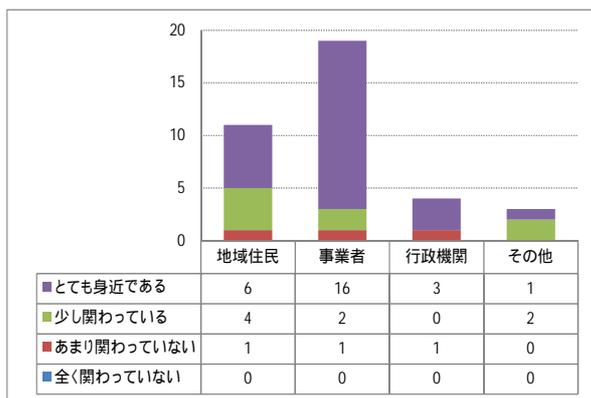
## 7 参加者・傍聴者アンケート（開催後）

リスクコミュニケーションの開催後、出席者(地域住民代表、行政関係者)と傍聴者(地域住民、県内事業者等)を対象として、アンケート調査を実施し、感想や御意見をいただきました。

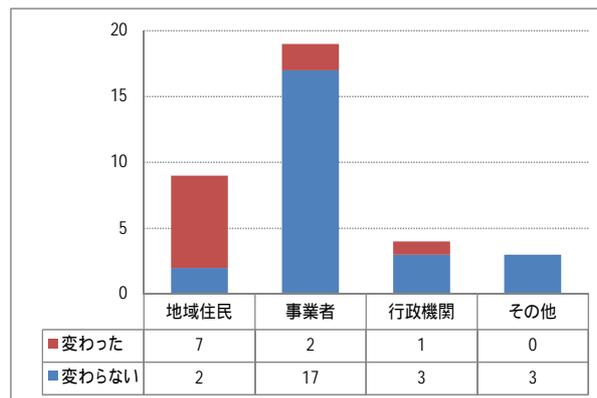
回答状況

	配布数	回収数	回収率	区 分	回答数	構成比
合 計	42	37	88.1%	地域住民	11	30%
				県内事業者	19	51%
				行政機関	4	11%
				その他	3	8%

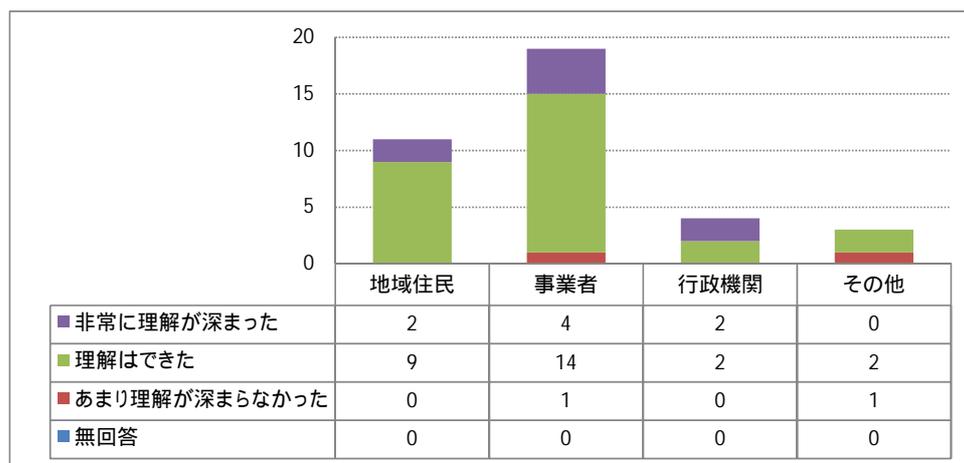
## 化学物質と生活との関わり



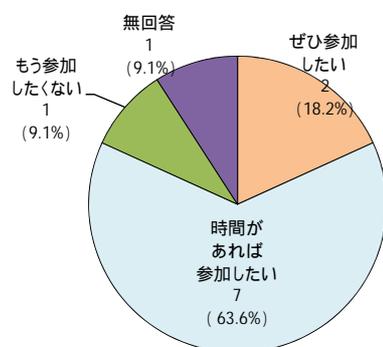
## 化学物質のイメージの変化



## 工場の化学物質管理に対する理解

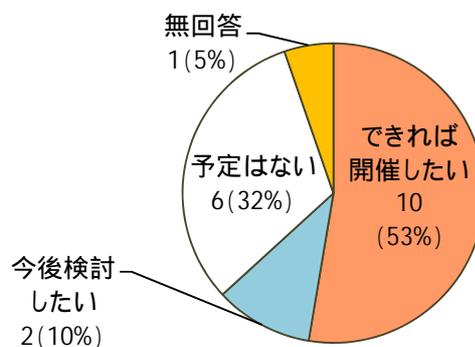


### 【住民の方のみ】今後の参加希望

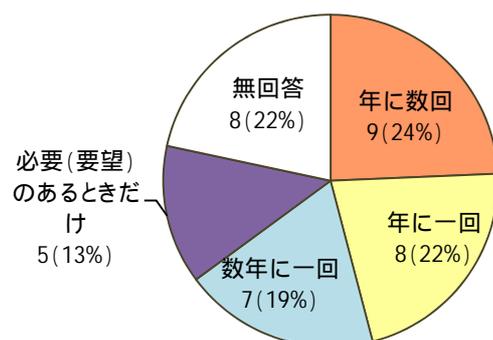


### 【事業者の方のみ】

#### 自社でのリスクコミュニケーションの開催



## リスクコミュニケーションの適切な開催頻度



なお、集計結果の詳細はこちら [\(参加者・傍聴者アンケート集計結果\)](#) を御覧ください。

## 8 まとめ

今年度で県のリスクコミュニケーションモデル事業は2年目を迎えました。

今回は、株式会社ケーヒン角田第一工場から、事業者として掲げる「業界トップレベルの環境マネジメント体制を目指す」環境取組基本姿勢の実現に向け、地域社会と会社とのコミュニケーションを通して信頼関係を構築していく上で、地域住民の方々との対話のきっかけをつくりたいとの意向を受けて開催しました。今年度の実施にあたり、昨年度のエム・セテック株式会社仙台工場でのモデル事業を傍聴され、また、今年度6月に開催した事業者のためのリスクコミュニケーションセミナーの参加等により、リスクコミュニケーションの趣旨や開催イメージを理解され、内部的にも意思統一と体制整備を重ねておられたようです。

準備の過程では、角田市並びに行政区に事前アンケート等の御協力をいただきました。

また、行政区の区長さんをはじめ地域の方々には、今後の工場との相互理解のために必要な具体的な提言をいただき、双方顔のみえる関係の構築とこの取組の重要性を改めて感じました。

住民の方々にとっては近くにありながらなかなか見聞きできなかった工場の事業内容や環境対策を知り、工場側は地域住民の不安、疑問や要望などを知ることができ、今後の相互理解に向けた取組の方向性や課題抽出など、初めての取組としては十分な成果を得られたものと思います。また、住民の皆さんからは「工場見学と説明で不安や疑問が解消された」「これからも良い関係を続けていきたい」との意見があったことは大きな成果でした。

当日のモデル事業の実施内容等については、進め方などにおいて課題や反省点もありますが、地域住民、事業者、自治体がそれぞれの立場で、一緒に取り組んだことはリスクコミュニケーションの望ましい姿であると感じています。

株式会社ケーヒンは、角田市内をはじめとして県内にも複数の拠点を有しており、今回の開催をきっかけに、今後は、他の地域においても継続して実施していきたいとの意向をお持ちです。事業者による自主的取組を積み重ね、地域住民との相互理解を深めることで良好な関係を構築し、地域と共存しつつ環境リスクの管理改善を実現していただくことを期待しています。

## 9 協力

モデル事業の開催に当たっては、化学物質アドバイザー派遣事業事務局の御協力をいただき、化学物質アドバイザー及びファシリテーターの派遣を受けて開催されました。

なお、開催内容については、同事務局でも「対話事例」が作成され、ホームページ（<http://www.env.go.jp/chemi/communication/taiwa/index.html>）で公表されることとなっています。